

活動名：第 14 回福島空港公園杯ジュニアサッカーフェス U10

日 程：令和 5 年 6 月 10 日（土）・11 日（日）

会 場：福島空港公園 緑のスポーツエリア 多目的運動広場

参 加：「アーレ E3 チーム」E3 11 名

帯 同：小松コーチ

サポート：10 日貝和コーチ、11 日佐藤コーチ

報 告：小松

毎年この梅雨の時期前後は、空港杯 8 人制サッカー大会の季節です。この大会は、設楽コーチがお勤めする都市公園・緑化協会が空港公園の天然芝の利用促進と子供達にサッカーを通してたくさんの経験を積んで欲しいとの願いから今大会で 14 回を数える中通りを代表する大会です。この大会に私達アーレコーチ陣もスタッフとして初回から関わらせて頂き言わば私達アーレ自前の大会と言っても過言ではありません。

今年も沢山のチーム、クラブに参加して頂きました。コロナ禍も 5 類へ移行しての大会開催となりまた新しい章となりました。

都市公園・緑化協会の所長はじめ梅宮さん、グラウンドキーパー丹内さん朝はやくから夕方遅くまでいろいろとお世話になりました。

ありがとうございました。たくさんの子供達の笑顔届いていると思います。

来年もまた盛大に出来たら幸せです。

どうぞ宜しくお願い致します。

さてここから 2 日間に渡り熱い熱戦について語りたくと思います。まず私達の特徴としては、基本的に団子状態になってしまうワンプレーワンプレーで切れてしまうあきらめがはやい、とにかくサッカーが好きと言ったところだと思います。この特徴を生かした戦いをすれば勝負には負けてもサッカーをやってくれるサッカーの原理原則に触れてくれると思ひみんなで一丸となって戦いました。

基本的には各チーム諸事情はあるとは思いますがオール 3 年生もなかなかの編成自ずと勝負と言う黒白のはっきりした世界の話ではありません。

では…それでもサッカーの原理原則は学ばなくてはなりません。団子は団子でいいのです。そのかわりオフenseディフェンスを団子のまま協力して全員でやる、コーチの鼓舞にこえて広いピッチをあきらめず走り切る人の居ないところ空いてる場所にドリブルで駆け上がると言う戦いをしました。

さすがにはじめは、緊張や誰かがやってくれる、僕は 1 回で抜かれたから終わり終了と言うところでした。しかし試合経験とともに少し少し粘りやくらいつきが出て来て 1 日目最終試合には待望の 1 点をあげることが出来ました。もちろんこの 1 点の魔法の薬の効果は絶大なもので即効性も伴いその後 2 得点をあげることが出来ました。

ロースターな部分もありましたがまさかの 3 得点は、素晴らしいのひとことやれば出来るを証明してくれました。

2 日目も前日の経験からやれば出来るを体現してくれる戦いでした。途中キャプテンが結果的に落ち着きがなくなってしまった選手からあるひたむきに走り切る選手にかわったり最終試合の同門対決ではキーパーをやってくれる選手が居なくなってしまうなどチームと

して難しい問題も起こりました。

結果的にキーパーは、私の介入となり私の決め打ちとしてしまたったこと本当に申し訳なく感じています。

この試合の前までは自己申告制で何度となくチームを思い何回かキーパーをやってくれた選手も居ました。ただ私が伝えたのはキーパー練習を試合用に捉えてないのでサッカーをやって来て欲しいと。たまたまボールが身体に当たって弾いた感じでいいからずっとゴールに居ないで出て行ってピッチから仕掛けてサッカーをして欲しいと伝えました。

これはすべての試合でお伝えしたことなので試合によっては果敢に挑む場面もしばしば。むしろ挑み過ぎかと言う場面すらあったかも知れません。物事はやってみないとわかりません。そこでの成功失敗体験こそが次に繋がります。成長期待しちゃいますね。

最終試合は、アーレ同士と言うこともありシャキッとしない気恥ずかしさやいつもの練習前のボール蹴りの雰囲気と言いますか戦う感じから程遠い和みになってしまいある意味この試合が1番らしくない戦いとなってしまっていました。

ただ前後半含めてキーパーはよく戦ってくれました。

特に後半のキーパー選手には心と身体にたくさんの負荷がかかってしまいました。

キーパーの概念に縛られて迫り来るシュート、それでもやらなければならない自分に戸惑いと不安。それでもサッカーをやってとは無理なお願いだったかも知れません。しかしその無理と言う気持ちに押し負けることなく足だけでも動かして欲しかったと。

なぜなら誰でもない彼の人間性を観て指名したからです。それでも私の鼓舞に応えて良く戦ってくれました。

何ごとも経験してそれが成功失敗は、別の話です。これからもいろいろなプレーに挑戦してサッカーの楽しさ面白さに触れてもらえるとありがたいと思います。

2日間に渡りたくさんものを吸収できました。

何よりあきらめなければ何か起こせるのかを具現化出来たことは大きな成長のステップとなりました。

そんな意味では、勝負として試合を捉えるのではなくどれだけ頑張れるか、どれだけ自分自身と向き合えるかとして感じてもらえると世代やレベルではなく純粋に選手の人間性が垣間見えます。

これからも保護者の皆様とこの人間性が伴う育成が出来ればと心から願っております。

どうぞ宜しくお願い致します。

本当に朝はやくらから夕方まで2日間に渡り運営お手伝いまでありがとうございました。

特に2日目は雨の中まで大変お世話になりました。

一緒に成長出来た2日間でした。

ありがとうございます

また今回参加して頂いたたくさんの選手、コーチ、監督、保護者の皆様ありがとうございました。また大会などでお相手出来れば幸いです。

宜しくお願いします。

それでは、来年も開催されることを期待しております。

ありがとうございました

コーチ：小松



